

第54回 卒業式・ 第43回 学位記授与式

3月20日、第54回卒業式・第43回学位記授与式を挙行了た。2,144名の卒業生、修了生が旅立ちの日を迎えた。

キャンパスおよび式典会場が密にならないよう第一部は外国語学部と法学部、第二部は国際教養学部と経済学部、大学院で実施し、卒業生本人のみの出席とした。式典の様子は、今回初めて、卒業生と卒業生の保証人を対象にオンラインで配信した。

式典で、山路朝彦学長は「2020年度卒業生・修了生として、社会に堂々と乗り出してください」と式辞を述べた。続いて、吉田謙一郎獨協学園理事長からは「獨協人としてのアイデンティティを胸に、新たな時代を築いてください」と激励の言葉を贈った。

その後、卒業生・修了生の代表者が、答辞を述べた。第1部では、国際関係法学科の佐藤祐貴さんが「かけがえのない友と出会い、学び、成長することができました。どのような状況であっても獨協大学で学んだことへの感謝と誇りを持ち、明るい未来に向かって歩んでまいります」と決意を表明した。第2部では、経済学科の小林博慧さんが「獨協大学での4年間は、私たちにたくさんの実り豊かな出逢いを授けてくれました。そんな一つ一つの素晴らしい経験を、どう今後の人生に活かしていくのか、それを模索していくことが、私たち卒業生に与えられる大きな使命であると思います」と語った。

プロムナードには、クラブ・サークルからの祝福メッセージが書かれた看板が並べられ、学生センター前には、花で装飾されたアーチが設置された。また、各人が学位記を受け取る教室のスクリーンや学生センターの大型モニターには、大学教職員らによるメッセージ動画が流れるなど、キャンパス内は祝福ムードに包まれた。

人工芝グラウンドがリニューアル スポ・レク授業、学友会活動の活性化を期待

3月31日、グラウンドの芝の張り替え工事が完了した。全面張り替えは、2007年に人工芝グラウンドが竣工して以来初めてのことで、工事は1月から約2ヶ月間にわたり行われた。

今回導入した人工芝「アストロフィールドDD」は、FIFA(国際サッカー連盟)公認メーカーの製品で、芝同士に適度な間隔があり怪我を抑制する。また、充填材には、温度上昇を抑制する特殊なチップが使われており、熱中症予防にも効果がある。プロサッカーチームのグラウンドにも同種の人工芝が使われている。

張り替えを担当した施設事業課の城田修司課長は「人工芝グラウンドはスポーツレクリエーションの授業および学友会活動で利用されており、本学の学生スポーツの中心施設です。今回導入した芝は、学生が安全に最大パフォーマンスを出せるものを選びました。施設はあるだけでは意味をなしません。学生のみなさん、授業や学友会活動で人工芝グラウンドを有効活用してください」と語った。



リニューアル後の人工芝グラウンド

■ 学 士

学科	学位記取得者数	総 代
ドイツ語学科	133名	菅井 杏奈
英語学科	343名	生沼 ジェイコブ
フランス語学科	102名	中澤 奈緒
交流文化学科	112名	長山 シャヒドラムシャ
言語文化学科	151名	廣岡 幸恵
経済学科	340名	安部 朱音
経営学科	360名	松崎 彩音
国際環境経済学科	141名	小林 風夏
法律学科	268名	外塚 蒼太
国際関係法学科	92名	藤原 小春
総合政策学科	95名	高橋 皓太

■ 修 士

研究科	学位記取得者数	総 代
法学研究科	1名	鈴木 孝子
外国語学研究科	2名	植草 あかね
経済学研究科	4名	黎 華新



式典では各学科の総代が山路学長から学位記を受け取った

2021年度始動 学生がキャンパスに戻る

2021年春学期が始まった。授業開始に先駆け、4月1日に2021年度入学式、3月25日から4月6日まで健康診断を、キャンパス内で感染予防対策を取りながら実施した。一方、オリエンテーション期間中に行った、学部生対象の各種ガイダンスはオンライン等で行った。

授業初日となった4月12日、E-202教室で行われた授業「現代社会1(国際法1)」には、約80名が出席。座席の間隔をあげ、窓や扉を開放するなどの感染予防対策を講じた。

1限目の英語クラスの授業を終えた星千陽^{ちひろ}さんと、庄子千尋さん(ともに仏語2年)は「約1年ぶりに授業を教室で受け、遠隔授業に比べて先生にも質問しやすいと感じた。クラスメイトと同じ空間で授業を受けることができ、安心感があった」とコメント。2限目以降の授業を自宅で受講するために、帰路に就いた。

このほか、キャンパス各所には、大学内で遠隔授業を受講できる自習ブースが設置され、利用する学生の姿が見られた。



始業前のプロムナードの様子(4月12日撮影)



自習ブースを使用中の学生